

『放射性セシウム汚染と子どもの被ばく』を読んで

○ニュースを見ているだけだと、「大変な事が起こっているのだな」ぐらいにしか考えていなかったけど、この文を読んで初めて自分にも深く関わりのあることなんだと知りました。肉やキノコなどを全く食べないのは難しいけれど、量を減らすことはできると思うので、今までよりも食べるものに気をつかっていきたいと思いました。

○『放射性セシウム汚染と子どもの被ばく』を読んで一番印象に残ったのは、野菜などがセシウムで汚染されたというニュースが流れた時の放射線の専門家たちの言葉です。放射線の専門家はこう言いました。「セシウムは体内では筋肉などに蓄積するだけで心配ありません」この言葉に私は疑問を持ちました。セシウムが内蔵ではないにしろ筋肉に蓄積しているということは一応は体内に残っているということになる。はたして人体に有害なセシウムが体内に残っているのだろうか？私はあまりよく放射性物質の事がわかりません。だからこそ、専門家やメディアには本当のことを言って欲しいのです。最悪の未来にならないためにも、絶対嘘はついてほしくないと心から思いました。

○まず思ったのは、何故、「セシウム137の体内分布」など様々な内部被曝による人体への影響の研究データが出ているにも関わらず、住民に避難させずに児童の屋外活動を制限するだけなのか？このデータが100%正確というわけではないが、万が一記載されている通り、子どもの放射線に対する感受性が大人の3~10倍になるのだったら、あの区域に住んでいる妊婦・幼児・児童は、今はまだ大丈夫かも知れないが、何十年後に重篤な症状が出てしまうのではないかと、とても不安になる。国が出している数値、テレビや新聞、専門家が言っている言葉がどれも違っているので、正直、正確な情報がわからない。どれが正しくてどれが間違っているのかは、知識のない私には見極める事ができない。こういった不安や混乱をはやくなくし、今、何をすべきか、何が安全なのかをはっきりして欲しいと思う。

○『放射性セシウム汚染と子どもの被ばく』を読んで、放射性セシウムは水によく溶けるということを知り、驚きました。特にきのこ類は多いということが分かり、きのこ類を食べるのが怖くなりました。汚染すると子どもたちには、呼吸器や消化器、内分泌系などの疾患があらわれると書いてあり、なるべく放射能にあたらないようにしようと思いました。放射能は怖いものだとわかってはいたけど、実際どのような病気になるのかが分からなかったもので、分かってよかったです。

○日本を将来背負う子供たちを危険にさらしてはいけないと思いました。「心配ない」というコメントを専門家が言っていたら、それを信じてしまうので、きちんと責任をもって発言して欲しいと思います。放射線をあびてしまった食料を摂取することは、改めて危険な事だと感じました。セシウムは肉の汚染が多いと書いてあるのを見て、お肉をあまり食べたくないと思いました。

○ニュースで報道されている話と、この『放射性セシウム汚染と子どもの被ばく』では言っていることが全くと言っていいほど違う、と思いました。

食べ物を通じて自分にも影響がでてくるし、被曝した子どもたちには直接体に影響がでてきます。国はそういう事実を知っていると思います。ただ何が恐いのか、全く改善しようとしていません。専門の人がこうして調べ、この状況がどういうことを招くのかを言っているのに、なぜ未だに良い方向へ向かって行かないのだろう。

「日本の国の状況」が今最も心配です。次にこういうことが起こったらどうなってしまうのだろう。

○「屋外で運動させると被曝するから屋内で過ごせばよい」というのは間違っていると思いました。なので、国が少しずつでも除染すると発表したのはあたりまえのことだと思いました。今まで汚染された食材についてあまり考えたことがなかったので、これからは少しずつでも考えて過ごしていきたいと思いました。

○テレビのニュースなどでこのことについての報道を見てきましたが、こんなに詳しくは初めて知りました。子供の遊ぶ場所が制限されたり、食べ物が制限されるのはしょうがないことですが、子供たちにとってはきついことだと思いました。しかし、危ない成分が入っている食材を食べるのは危険なことなので、こういう食材はきちんと管理することが大切だと思いました。キノコ類に1番多いということは初めて知ったので、少し驚きました。

○少しでも危険だと言われているもの、危険と言う人がいるのならできる限り体内に取り込まないようにするべきだと思った。私は、キノコは嫌いなのでもともと食べないが、家族にもあまりキノコを食べないように言ってあげようと思った。

○これを読んで一番に感じた事は、日本での対応の遅さ、正しい情報伝達の少なさに対する憤りです。児童や乳幼児、妊婦がセシウムの影響を受けてしまいやすいのなら、当然もっと早く避難するよう情報を伝えるべきだし、「民の安全を守るのが、国の役目ではなかったのか」と思います。国もその事を知らなかったのなら仕方ないかも知れませんが、チェルノブイリ等、前例はいくつかあり、情報も少なかつたとは思えません。利益や責任問題を怖がって真実を教えてくれないなんて、残念で仕方ありません。

他にも、なんとなく分かってはいましたが、きのこ類や野菜の危険性も、数字を見てしまうと改めて危険な物だと感じました。これから寒くなり鍋や煮物（野菜や肉、きのこ類の出番）が増えてくるのに、東北・関東の方には悪いと思いますが、あまり進んで購入できないな、と思ってしまいました。

○セシウム汚染されたら、甲状腺にいちばん蓄積されることが分かった。

・みんなテレビとかで大丈夫って言われているから、最近は全然考えてなかったけど、汚染されたら、人体的な害もあって大変だと思った。

・大人より、子供の方が（1Kgあたりの）蓄積量が多いことが分かった。

・（地震から）数ヶ月経った今も放射線の問題は解決していないんだな、と思った。早く改善してほしい。

○放射性セシウムは本当に恐ろしいものだと思った。将来的に福島の人々の体にどのような影響がでてくるのか、とても心配になってきた。原発事故は、原発を考えた国の責任だと思うので、人々の健康にこれ以上 害が出ないように、除染など早急に対応して欲しいと思った。

○政府の対応は安全面を考えたものよりも、自分達の保身を考えたものばかりで、対応も迅速とはいえないと思います。

災害が起こった場合は、常に最悪の場合を想定し、対応することだと思います。

ですが、今の政府の考えは、少し楽観的すぎると思います。

放射能について、国民のほとんどは知識がないのですから、国がもっと積極的に情報提供をしていくべきだと思います。

○放射性セシウムは、筋肉にとどまらず、甲状腺や体内のさまざまな臓器まで汚染すると知って、とてもびっくりしました。また、子どもは大人より放射線の被害を多く受けると知り、大人になってからの影響を考えると、一刻も早く避難した方がいいと思いました。

○これを読んで放射性セシウム汚染がいかに危険かが分かった気がする。

セシウム137は、約1週間で全身に分布する。そのため長時間汚染された土地にいと全身が汚染されてしまうのだ。特に子供は、大人よりも感受性が高い（3～10倍になることも）。なのに何故、日本は子供たちの基準をあやふやにしているのだろうか。国民の意見を聞き、不安を取り除くことが国の役目だと思う。

○日本の原発事故は大丈夫とよく言っているけれど、チェルノブイリ事故と比較してみると、とても大変なことであると思います。セシウムを特に取り込んでしまう食品が、キノコ・ミルク・肉で、私がよく食べる食品なのでごく恐いです。政府の人たちがどこまで知っているかわからないけど、てきとうなことを言うのはよくないと思います。しっかり理解してから、また発表した方がいいと思います。

○放射性セシウムはかなり広範囲に広がって、被ばく地の子どもたちは、自由に外で遊ぶことも、ちょっと散歩なんてできない。それでは病気になってしまうだろうし、放射性セシウムが1 μSv /時になるまでずっと屋内に閉じ込められるなんてかわいそうだし、ただ食事をするだけなのに、その中に放射性セシウムが入っていると考えるだけで朝から夜まで離れられないのだと、思いました。はやくなんとかして欲しいです。

○子どもは大人より3倍から10倍の放射線の感受性があると知って少しでも早く避難させることができるといいなと感じました。政府や行政は少しでも早く除染し、人々が安心して安心して暮らせるように手をうってほしいです。自分の身近でこのような状況になっている地域がある事を知って、とても心配になりました。子どもには将来もあるので、人々も今の状況を理解して、進んで避難してほしいです。

○セシウム137は大人よりも子どもの方が蓄積しやすく、しかも全身的に症状が現れ、呼吸器・内分泌・消化器などに障害を起こすことがわかった。また、外から受ける被ばくだけでなく、汚染されたきのこやミルク、肉などを体内に取り込んだ事による内部被ばくも考慮しなくてはいけないな、と思った。

今回の原発事故で「安全だ」と言われていたものも、そもそもは国の基準が間違えているだろうと思うので、自分が本当に安全だと考えたことだけを行動にしていきたい。

○セシウムのことをよくわかっていないのに専門家を名乗っている人がいるのがこわいと思いました。そんな人がテレビに出ていて話していたら、間違っているのに信じてしまうと思った。今、自分がどのくらい被ばくしてしまっているのか気になる。

○テレビや新聞を通して、地震発生後数ヶ月は放射線被害でさわがれていた事を思い出しました。今でもさわがれていますが、あの時はどのチャンネルをみても放射線についての討論をしていたり、新聞にも大きく取り上げられていました。

放射線被ばくをどんなに恐れていても、子どもはずっと家に居る事がつまらなくなつて外に出たがると思いました。外に出なければ、外部被ばくはないだろうが、セシウムに汚染されている食べ物を、知らぬ間に口にしていれば、大人よりも吸収が良いぶん、内部被ばくの恐れが高くなると思います。少子高齢化社会で子どもが大切、将来の担い手が必要だと言われているのに国がそれを摘み取っているような感じがするので、素早い対処を行うべきだと思いました。

○政府と専門家の意見の食い違いから、私たちはどの意見（発表）を信じればいいのかろうと思った。崎山さんの文を読んでいると、放射線の危なさをとても感じた。食物からの影響はたいしたことないだろうと思っていたが、時が経つにつれて、土からの吸収があるとは知らなかった。自分たちが食べるものすら、どれを信じて選べばいいのか、わからなくなってしまった。被ばくによる子どもたちの症状も、見ているとどれもかかりたくないものばかりで、福島の子たちのために安全策をとって欲しいと思った。

○専門家は筋肉に蓄積するだけといっているが、調査をしてみると筋肉にとどまっているだけではなく、甲状腺・心臓をはじめ、副腎・膵臓・胸腺・脾臓など内分泌腺や免疫を担う臓器にも蓄積しているとの結果が出ていた。どちらが本当だかわからないが、どちらかに決めてもらはないと、放射線を浴びたときの不安の大きさが全然違うと思う。さらに、その重量あたりの蓄積量は、子どもの方が2～3倍、放射線に対する感受性は3～10倍というのにも驚いた。少しでも被害を受ける人が減るように、きちんとした対策を練ることが大切だと思う。

○セシウムに汚染された地域に住むと外部被ばくだけでなく、食べ物を通じて内部被曝もしてしまう。しかも専門家は、筋肉だけに蓄積すると言っているが崎山さんの資料では、筋肉だけにとどまっているのではなく、甲状腺、心臓をはじめ、副腎・膵臓・胸腺・脾臓など内分泌腺や免疫を担う臓器にも蓄積するとの結果が出ていた。さらに、その重量あたりの蓄積量は、子どもの方が2～3倍、放射線に対する感受性は3～10倍ということが書いてあってびっくりしたし、怖いと思った。これからまだ先のある子供がそういう状況にあるのはよくないことだと思う。実効的な対応をして欲しい。

○これを読んで驚いたのは、大きく分けて2つありました。一つ目は、チェルノブイリ事故で強制避難となった地域よりも高い汚染度が原発から北西方向へ30 km を超えて飯館村南部にまで広がっているということです。日本の放射線に対する危険の考え方があまいのではないかと、思いました。

二つ目に驚いたのは、セシウムは筋肉だけにとどまっているわけではなく、甲状腺、心臓、副腎・膵臓・胸腺・脾臓などの内分泌腺や免疫を担う臓器にも蓄積するということです。こんなところにまで蓄積して、体に害がないわけがなく、知らぬ間にどんどん体がむしばまれていってしまうのだらうと恐ろしくなりました。また、その臓器の質量あたりの蓄積量は、子どもの方が2～3倍になるということと、子供の放射線に対する感受性が大人の3～10倍にもなるということを知り、こんなにも子供に対する害が大きいなんて、驚きを感じました。そして、これから先、その子どもたちがどのような病気を発症していくのか心配です。

○政府はあまりにも適当だと思う。自分達のことしか考えてないようで対応が悪いと思う。本当に国民のことを考えているなら、もっと情報を出して欲しいし、対応も早くして欲しいし、今後のことははっきりして欲しい。説明不足だし、こういう時に対応もできないのに、リスクの高い原発なんてなぜ作ったのか、とてもギモンです。

○災害が起きた時、慌てないように起きる前から対策を練る方がいいと思いました。放射能について、国全体が正しい知識を知った方がいいと思いました。